

テーマは「きになる」住まいの“きになる”について考えます。

住まいのきになる通信 NO. 1

平成27年12月のきになる通信



住宅ローン 地銀が争奪戦

関西アーバン銀行 入院見舞金を付帯

池田泉州銀行 親元近くなら優遇

関西の地方銀行が住宅ローンの獲得に知恵を絞っています。

ローンに付随する保険の入院見舞金を充実させたり、営業拠点を休日も開いたりするなど、金利以外のサービスを磨いています。

(2015年11月10日 日本経済新聞記事から抜粋)



マンション 中古を吟味 修繕積立金と議事録 確認

- ・中古マンションの管理組合に専門家によるインスペクション（診断）サービスを利用したことがあるかどうかを確認するのも一案。
- ・外壁や共用廊下の天井などにひび割れがないか、よく観察しましょう。
- ・修繕積立金が十分かどうかを確認。
- ・長期修繕計画や積立金の詳細は、仲介会社に頼めば売主やマンション管理会社から取り寄せてくれます。

(2015年11月18日 日本経済新聞記事から抜粋)



テーマは「きになる」住まいの“きになる”について考えます。

住まいのきになる通信 NO. 2



「買うなら新築」7割 内閣府住生活調査

便利な立地重視

内閣府は、住生活に関する世論調査の結果を発表。住宅を購入するなら新築か中古かを尋ねると、「新築の一戸建て住宅」の回答が63.0%、「新築のマンション」も10.0%で、新築志向が計73%に上りました。「中古の一戸建て」「中古のマンション」は、合わせて9.9%。

「新築が良い」という理由は、「間取りやデザインが自由に選べる」が66.5%で最も多く、次いで「すべてが新しく気持ちいい」が60.9%。

「人が住んでいた後には住みたくない」（21.4%）、「中古住宅は耐震性や断熱性など品質に不安がある」（17.5%）のどの意見もありました。

住宅選びで最も重視することについては、46.5%が「立地の利便性」と回答。「住宅の広さ・間取り」（16.5%）、「立地の安全性」（14.6%）と続きました。

（2015年11月29日 日本経済新聞記事から抜粋）



放置 全国に318万戸 空き家

総務省の2013年の調査によると、全国の空き家は820万戸で、20年前の1.8倍に増えました。このうち、「放置空き家」が約318万戸を占めます。

空き家対策特別措置法に基づき指定する「特定空き家」は、倒壊の恐れがあるなど、特に状態が悪い建物。所有者が分かる場合、自治体が撤去を勧告すると、土地は「更地」扱いとなり、固定資産税の減免措置が解除されます。

（2015年11月30日 日本経済新聞記事から抜粋）

